

【基礎情報(事務局用)】

設立年		代表者	大場茂生
実習担当 責任者	氏名：田中真也	連絡先	電話：075(465)8149 メール： shinyat@st.ritsumeai.ac.jp
実習先 所在地	衣笠キャンパス		
実習先 部署	衣笠キャンパス地域連携課		
職員数	正職員： 人(有給/無給) / アルバイト： 人(有給/無給) インターン： 人(有給/無給) / ボランティア： 人(有給/無給) その他： 人(有給/無給)		
設立趣旨 あるいは 活動理念	絶滅寸前種に指定されているフジバカマの栽培を通じて、生物多様性の損失の 阻止というSDGsの目標15の達成を目指す		
主な 活動内容	嵐電、沿線住民との協働による「絶滅寸前種フジバカマの栽培」、「嵐電の駅緑化へ の活用」、「渡り蝶アサギマダラが飛来する街づくり」「御室小学校と聾学校との連携」		
ボランティア 受入実績	2021年度春 semester「現代社会とボランティア」では13名のボランティアを受け入れ (挿し芽づくり、鉢上げ、毎日の水やり、嵐電の宇多野駅と妙心寺駅への地植え)、同 秋 semesterに「シチズンシップ・スタディーズ」にて8名のボランティアを受け入れた。		

【活動にあたってのリスクの想定】

	予想されるリスク	予防策・対応方法
1	作業に伴う手指の切り傷等	軍手着用を義務付け
2		
3		

【教育プログラムでの過去のトラブルと実際にとった対応】

	過去のトラブル事例	実際にとった対応
1		
2		
3		

受入団体名：衣笠キャンパス地域連携課

募集人数

5名程度

団体プログラム名：絶滅寸前種フジバカマの栽培とまちづくり

<活動期間：2021年9月28日～12月7日 活動日数：9日程度

<活動日or 活動パターン>

■週1日程度・定例

<主な活動場所>
東側広場横花壇

<活動の流れ>

<キャンパスからの交通手段>
徒歩

日時	活動内容
9/27(火)	絶滅寸前種フジバカマの説明、衣笠キャンパスのフジバカマの観察、散水、アサギマダラの飛来確認
10/4(火)	嵐電の駅へ設置したフジバカマの観察、沿線住民との交流、アサギマダラの飛来確認
10/11(火)	衣笠キャンパスのフジバカマの観察、散水、アサギマダラの飛来確認
10/18(火)	衣笠キャンパスのフジバカマの観察、散水、アサギマダラの飛来確認
10/25(火)	2021年度活動に関する振り返り(嵐電、沿線住民、大学)
11/1(火)	2022年度活動計画検討(嵐電、沿線住民、大学)
11/8(火)	2021年度総括および2022年度活動計画に関する意見交換
11/15(火)	茎の伐採、葉の剪定および乾燥
11/22(火)	冬支度(根元に腐葉土をかける)、匂い袋づくり

<活動に必要な費用>
無料

<参加の姿勢>

地域連携活動の一環として活動していますので、地域から参加されえる方とも積極的に交流してください。

<コミュニケーションの手段>

■電子メール ■LINE ■電話

<活動のテーマと主な内容>

絶滅寸前種フジバカマの栽培とまちづくり

2020年7月に、公益財団法人京都市都市緑化協会からフジバカマの原種の苗を衣笠キャンパスで受け入れて以降、学生や教職員、近隣住人、ボランティアグループとともに育ててきました。2021年秋には、海を越えて飛んでくる美しいチョウ「アサギマダラ」がフジバカマの蜜を吸いに衣笠キャンパスにも飛来。絶滅危惧種のフジバカマの栽培「挿し芽でふやす→植える→観察する→収穫する→上手に使う→芽が出る→挿し芽でふやす・・・」というサイクルを地域連携による協働・ネットワークを通じて行うことで、SDGsの目標15「生物多様性損失の阻止」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を目指しています！

<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

企業(嵐電)、地域住民、大学が三位一体で絶滅寸前種フジバカマを育てることを通じてまちづくりに取り組んでいることをよく理解して、参加する自分たちもその一員であることを認識して行動して欲しい。

<学生が期待できる学び>

「共同作業」が有するネットワーク構築力を実感できます。あらためて衣笠キャンパスの存する京都市北西部地域の方々の地域愛を体感できます。そしてそのような地域で学ぶことの意義を認識することができます。

<活動紹介>

